



能古博物館だより



「真藤慎太郎翁喜寿像」の来歴

大日本水産会が真藤氏へ贈る

北洋漁業の開拓者 政治家緒方竹虎氏の支柱

理事長兼館長 原 寛

今夏の常軌を逸した酷暑は夏休み期間中の入館者減となつてはね返りました。待てど暮らせど一人も訪れず、ゼロを記録した日もありました。たまに汗びっしょりで入つてこられると、受付の女性はさながら「お客様は神様です」の思いをしたそうです。

最近、別館横にある「真藤慎太郎翁喜寿像」＝写真上＝について質問を受けました。当館との関係がいまひとつはつきりしないのが原因でしょうか。像の高さは70センチとさして大きくありません。館便り第3号(平成2年1月)に建立までのいきさつが次のように書いてありました。

「この寿像は、昭和三十四年、真藤先生七十七歳、即ち喜寿の祝いに日本水産会から贈呈されたものと聞く。(中略)この立派な像が能古博物館に立つ由来は、博物館の設立は財団法人亀陽文庫で、その創始者が翁である。寿像は、当初、東京千代田区霞ヶ関

・進藤英太郎氏の横浜邸に移された。後に亀陽文庫の設立を聞かれた英太郎さんから翁寿像を福岡に移してはどうかと話されたことがある。昭和五十二年英太郎さん御死去。その後、御息女の実藤嘉世子さんから、父も言つておりましたので、となつて現立地を得た次第である。」(当時の当館理事長庄野寿人氏記す)

映画俳優・進藤英太郎の名前に懐かしさを覚えるのは大正から昭和ヒトケタ生まれの方々でしょう。悪役が得意の個性派俳優を東映映画の時代劇で見た記憶があります。

さりながら銅像の主真藤慎太郎氏についてはついぞ知りませんでした。平成九年に当館の運営に携わるようになってから、福岡市出身で北洋漁業の開拓者であり、郷土が生んだ政治家緒方竹虎氏の有力な後援者だった、といった知識を得ました。

今号は真藤慎太郎氏の遠縁に当たる安松淳祐さん(友の会会員)に「東京のおいさん」と題して銅像の主の横顔を寄稿して頂きました。安松さんは最近まで銅像の存在を知らなかったそうです。



原 寛

先生御死去(昭和四十六年一月)の後、後嗣の真藤辰五郎(映画俳優

「東京のおいさん」

友の会会員 安松淳祐

古希を過ぎ、どうやらサラリーマン生活にも終
止符を打ったのを契機に、これまでいささか疎遠で
あった高校時代の同級生と、旧交を温めることが
多くなった。

つい先頃、その中の1人で、現在「能古博物館」の
運営に携わっているN君から「友の会」入会のお誘
いが送られてきた。

縁続きの私としては、はなはだ勉強不足な話だ
が、添付された資料から、大叔父真藤慎太郎の銅
像が敷地内にあることを初めて知った。しかも東
京の自宅にあった像が、色々な方のお骨折りで、ふ
るさとに帰るに至った経緯が事細かに書いてあっ
た。

思い起こせば、私を知る「東京のおいさん」は、年
齢にして70歳頃からこの世を去った88歳までの20
年足らずで、それも親戚としての側面だけである



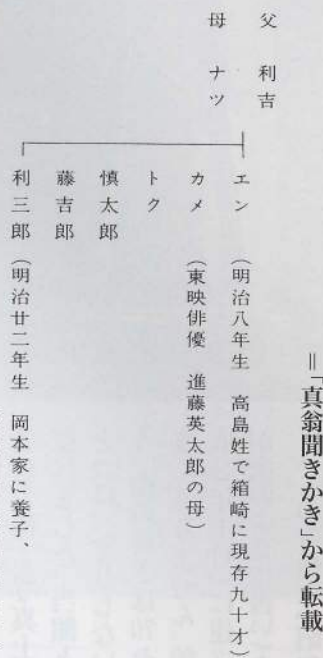
米寿祝賀会の真藤慎太郎氏=安松淳祐さん提供=

が、私との関わりについて少し触れさせて頂きたい。

タイトルの「東京のおいさん」とは、当時、私の母
が「真藤慎太郎」を話すときの愛称である。

簡単に「おいさん」との関係の説明すると、母は
家系図にある「利吉・ナツ」の3女「トク」の子女で、
従って弟の「おいさん」は母の正真正銘の叔父に当
り、私からは大叔父ということになる。いつの頃か
らか私も自然と「東京のおいさん」と呼ぶようにな
った。

◇真藤家の系図◇ (昭和39年11月現在)



☆

特に高校、大学への進学や社会に出るときなどに、
私の人生の節目には、いろいろ示唆に富む話を聞か
せてもらい、今でもそれは私の生き方の指針のひと
つになっている。

昭和45年10月、米寿の祝いに母と出席したのが
最後の出会いになった。

☆

「おいさん」が他界して40年、どうやら私も初め
て会った時の「おいさん」の年齢に達した。N君のお
陰で、期せずして、「おいさん」と再会出来るのも
何かのご縁であろうか・・・。

猛暑の日々が落ち着いてきた9月中旬、私は、「銅
像のおいさん」と初めて対面した。「おいさん」はす
っかり小柄になっていた。

(やすまつ じゅんすけ 元西部ガス情報システム(株)社長・73歳)

竹馬の友 緒方竹虎氏との出会い

幼いころ真藤慎太郎氏と緒方竹虎氏が結んだ友情は
終生変わらなかったといわれる。館便り第3号(平成2
年1月)掲載の「真翁聞きがき」はその出会いを次のよう
に伝える。

×

ぼくは、明治十六年七月、福岡市紺屋町(中央区
大名1丁目)、父利吉、母ナツの長男に生まれた。姉
三人の次に、ぼく以下弟二人の六人姉弟である。父
の身長五尺八寸(1.76m)、当時としては大男。姉
も自分たちもみんな父親に似て大柄、ぼくは子供
相撲によく出された。(中略)

付属(福岡師範学校付属小学校高等科)時代に、

「おいさん」の存在は、以前から知ってはいたが、
直接、顔を合わせるようになったのは中学2年生
の頃である。当時(昭和25年頃)、我が家は父が亡
くなり、母が働きながら、私を筆頭に4人の息子
を育てている環境にあったため、その事に同情し、
何かと助言してくれるようになったのが、事の始ま
りである。

その頃「おいさん」は東京に居を構え、時折、来福
する生活であったが、来福すると決って、私は母に
同行してホテルを訪ねたものである。面談中は柔
道で鍛えた巨体に似合わず、孫に接するように、い
つも柔和で、穏やかな態度で接してくれ、会うのが

緒方竹虎とその両兄の雄平、大象、それに中野正剛がそれぞれ学年の違いはあるが一緒になったことがある。

ぼくは明治十六年七月、竹虎は二十一年二月、数え年で五歳違いであるが、三月を区切りに早生まれ、遅生まれで学年令が前後するので、竹虎とは四学年差があつたが、竹虎は成績抜群、小学校で学年飛び越し進級となり、これに学期中に上級編入があつて、ぼくと一学年差になつていた。

緒方三兄弟は、学業優秀だけでなく揃つて温厚君子型で、少年仲間にも敬意を持たれていた。ただ、ぼくと竹虎はウマが合い、登下校を一緒に歩いた。(後略)

真藤、緒方、出光の誓い

「二十年は死なぬ、死んではならぬ」

出光佐三氏の回顧

緒方君(緒方竹虎氏)が戦犯容疑、引き続き追放となり、外出が出来ないようになつてからは、歌舞伎座の隣りの私の会社(出光興産)へ二、三日おきに顔を出された。その頃は甘いものがなかなか手に入ら



桜の木の下に佇む「真藤慎太郎翁喜寿像」(能古博物館サポーターズクラブ・伊藤公夫さん描く)

ない時であつたが、会社の近所にはわりと菓子屋が多かつた。緒方君は有名な甘党であつたから、会社の美人の秘書が、大いに甘いものをサービスして同氏を満悦させた。真藤慎太郎君も、盛んに訪ねてきては甘い菓子をねだつた。(中略)

甘いものを囲んで緒方君はジュンジュンと論じられ、辛い舞台では真藤君の声が高いのが普通だつた。われわれ三人は、国難が余りにも深刻なのを見て、どうしても二十年は死なぬ、死んではならぬと堅く誓ひあつた。(中略)

緒方は利権に無関心だから・・・と真藤君は口癖のように悦んだ。緒方君を清浄無垢に終始さすのは、友人の責任であると二人は云ひあつた。真藤君が資金集めが下手だと評判されたのも、自縄自縛の感がないでもない。(中略)

緒方君は二十年長生きの約束を反古にして先に行つた。(中略)ちとひど過ぎやしないかと情けなく思つて居る。(後略)『回想の緒方竹虎』昭和31年4月発行から転載

緒方竹虎氏略歴 1888(明治21)年1月30日山形県生まれ。幼時、官吏であつた父道平の任地福岡に移る。修猷館卒後、東京高商中退、早大専門部政経科卒。1911年朝日新聞社入社。25年東京編集局長。36年二二六事件の際、朝日新聞襲撃の一隊に沈着に応接、事なきを得る。同年朝日新聞主筆・専務取締役。43年副社長。44年小磯、米内内閣の国務相・情報局長。この間、中国要人を介して日中和平工作を図るが、重光葵らの反対で失敗。敗戦後の東久邇内閣の国務相・内閣書記官長。45年12月戦犯容疑者に指名(47年解除され、46年8月公職追放。追放解除後の52年10月衆院に初当選。第4、5次吉田内閣の官房長官、副総理。54年吉田内閣総辞職に際しては、衆議院解散を主張する吉田総理を説得、吉田辞任後、自由党総裁に就任、55年の保守合同(自由民主党を結成)

を推進、鳩山首相の後継者と目されたが、56年1月28日、67歳で死去。著書に『人間中野正剛』(51年)、『軍人の生涯——回想の米内光政』(55年)がある。

出光佐三氏略歴 1885(明治18)年8月22日福岡県生まれ。父は藍問屋。旧制福岡商業、神戸高商卒。一介の丁稚として神戸の貿易商社酒井商会に入り実務を身につける。1911年独立して門司に出光商会(のち出光興産と改称)を創業。「大地域小売業」を目指し、九州地区を制圧して朝鮮、中国、南方へ進出する。敗戦による打撃は大きかつたが、「家族主義経営」と「民族資本・民族経営」に立脚した強力なリーディングシップを発揮、独特の事業展開をみせる。特に53年には石油国有化を果たしたばかりのイランから自社タンカー「日章丸」によって大量の石油を輸入、大きな話題を呼んだ。57年、徳山精油所を完成、初めて輸入・製油・販売まで一貫した経営体制を実現する。66年社長を退き、会長に就任。72年店主となる。81年3月7日、97歳で死去。



元帥服といわれた日魯漁業株式の制服を着用した真藤慎太郎氏＝「真翁聞きかき」より転載・昭和10年撮影＝注：同氏は昭和9年・同社専務取締役に就任。



「真翁聞きかき」の表紙

昭和39年、真藤慎太郎氏の長寿を祝う会が福岡市で開かれた。席上、出席者に記念品として和本仕立ての『真翁聞きかき』(真藤慎太郎先生寿筵会発行・非売品)が贈られた。真藤氏が自らの前半生を語り、進藤一馬福岡市長が序文を書いた。

能古博物館所蔵

「石橋家文書」の

解説・解析作業

友の会会員 石橋善弘

福岡藩西部の貴重な民間記録

早船正夫(代表)ら6人で研究

能古博物館は、江戸期の古辞学者亀井南冥(門の遺品、関係資料を集めた「亀陽文庫」で有名であるが、筑前五カ浦廻船の基地のひとつである能古に因む廻船関係の資料・物品のほか、姪浜旦過町にあった石橋家の寄贈による江戸後期から明治期にわたる多くの文書を所蔵している。

姪浜旦過町石橋家は、江戸中期以降筑前国福岡藩下、早良郡姪浜村において廻船問屋、酒造業、醸造業などを営み、藩の財政にも貢献したよう、藩から20人扶持(注1)、歴代当主は大庄屋格(注2)という地位を与えられている。



現在の興徳寺(福岡市西区姪浜5丁目)

いうまでもなく、地方史は地方ごとに特有の地域社会をかたちづくる異なった階層の立場からの見方をならべてみてはじめて面白みが出てくる。当然のことながら、福岡藩あるいは黒田家側の文書は相当量残されていて解析研究もなされているが、いずれも支配

者側、お上側からのものである。民側のものとしては、福岡城下湊町の加瀬家に伝わる「加瀬家文書」(福岡市博物館所蔵)が有名で、それにより市部にあつた有力商人と藩との関係、商家一般の様子などをつかいがい知る事ができる。それに対して、姪浜石橋家は早良・怡土・志摩郡役所の管轄下にあり、残っている文書も郡部の商家特有のもの、たとえば土地・田畑・家屋敷永代売渡証文、借用証なども多く、それらを通じてこれまでの歴史資料に欠落している部分を埋めるものとして期待される。実際、福岡藩西部については残っている文書は必ずしも多くはなく、その意味でも、石橋家文書の解説・解析は、地方史研究への寄与するところが少なくないであろう。

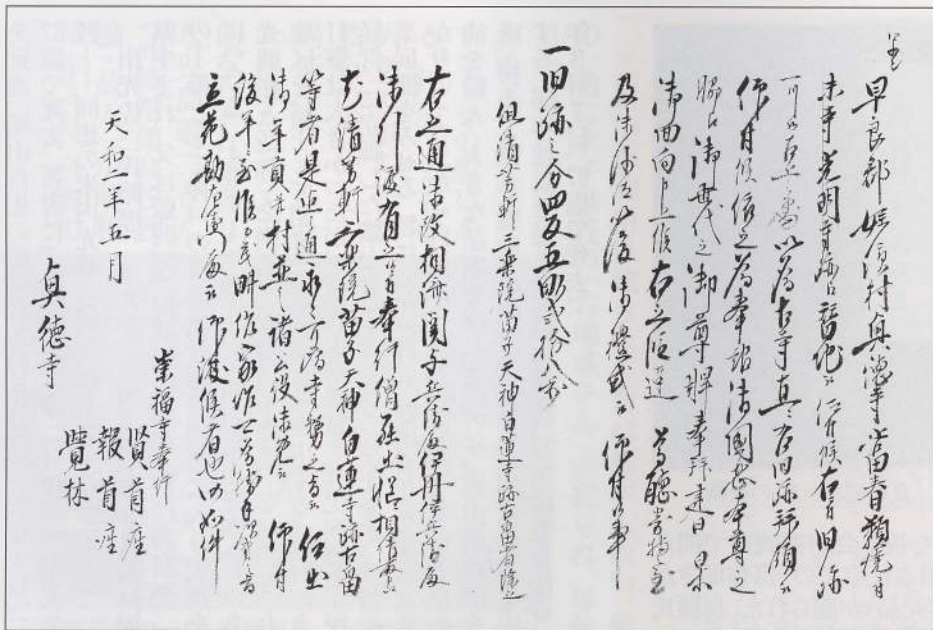
そのような観点から、平成20年福岡市西区姪浜地区において、早船正夫(代表)、伊佐英喜、原田一男、原順子、瀬戸美都子、石橋善弘をメンバーとする「石橋家文書研究会」が結成された。研究会メンバーは、いずれも歴史学を職業とする者ではないが、定期的な相集つて文書リストの作成、解説・解釈などにあたり、すでに相当の成果を得ている。

興徳寺の類焼被害と替地

ここでは与えられた紙面の都合もあり、解説済みのものの中から、石橋家文書のうちで最も古いもの(仮番号001・天和2(1682)年興徳寺の類焼被害にともなう替地通知書)をひとつだけ紹介しよう。

それによると、天和2(1682)年春、姪浜下野間(現福岡市西区姪浜6丁目付近)にあった興徳寺が類焼被害にあつたため、崇福寺の末寺光明寺跡(現在の興徳寺の場所、福岡市西区姪浜5丁目)に替地することになった。このような場合、元の場所は召し上げられるのが通例であるが、興徳寺が由緒

ある古寺であるのでそのまま新しい場所を拝領させ、替地後の年貢・諸公役は従前通り免除するとしていて、興徳寺側に取って極めて寛大な措置を通知している。また、替地に際して、清芳軒・三楽院(注3)、猫天神・白蓮寺跡・古島等を除いた旧跡地の面積を4反5畝28歩(約1378坪)と確定している。なお、この替地通知書の差出人は崇福寺奉行首座(しゆそ)、報首座、覚林である。また、土地の引渡し保証人には黒田藩中老の立花勘左衛門のほかに、関与兵衛、伊丹伊兵衛が名をつらねている。



・仮番号001:興徳寺の類焼被害に伴う替地通知書=天和2(1682)年=



・興徳寺と亀井南冥生誕地を掲載した姪浜、愛宕、下山門地区の歴史散策マップ。
＝福岡市西区役所企画課編集＝

文書の概要は以上のようなものであるが、「当時姪浜に沢山あった塔頭の位置からいえば、いまの場所は奥にありすぎる」と感じていた方もあろうが、そのような方々にとつては、この文書によって興徳寺が現在地にある事情が納得できる筈である。他方、藩主黒田家の菩提寺である崇福寺側にこれに対応する文書が残っているかどうか、引渡し保証人の関与兵衛、伊丹伊兵衛とはいかなる人物か、そもそもこの火事の発生は天和2年の何月何日で、その規模について他に記録があるかどうかなどの新しい疑問

注3・清芳軒の「清」と三楽院の「楽」とつてできたのが、現在の「清楽寺」である。

注2・「大庄屋」と「大庄屋格」は別物である。前者は多数あった庄屋の中から指名された者、それに対して後者は、藩への貢献の著しい者などに家の「格」として与えられたものようである。

注1・「慶応分限帳」によると20人扶持となつていますが、江戸末期になると藩の財政も苦しくなり、そのため市部・郡部を問わず富裕層から金を集めては、そのお返しとして扶持を乱発した模様で、石橋家には天保5(1834)年12月付けで50人扶持を受けたという記録が残つている。



楠の巨木が見事な興徳寺境内

点が出てくる。さらに、崇福寺と興徳寺の間でやり取りされた文書の写しが何故石橋家に残つていたのかなど疑問はつきない。このような疑問点をひとつひとつとつ解明する事が地方史への貢献になるであろう。



【筆者紹介】いしばしよし
ひろ 昭和10年(1935)福岡市姪浜町に生まれる。福岡師範学校(現福岡教育大学の前身)付属小・中学校、修猷館高校、東大院卒。名古屋大学名誉教授。理学博士。

☆「海の部屋」と「日野原ホール」のご案内☆

季節ごとの句会や研修会、サークルの発表会や反省会など、色んな集まりにぴったりです。博多湾の「へそ」と言われる緑豊かな能古島で、のびのびと心ゆくまで、しかも手軽に集まっていただけのように、ふたつの広い部屋をリーズナブルな料金で用意いたしました。お気軽にご相談ください。

■ 設備の内容

海の部屋Ⅱ館内で一番眺めの良い部屋Ⅱ写真Ⅱ。目の前の博多湾から対岸のビル群まで見渡せます。ジオラマケースを兼ねた特注の大型テーブルを囲んで10人座れます。窓際の椅子を使えば20人位は可能。隣の喫茶コーナーに醸金方式の飲み物を用意しています。

日野原ホールⅡ館内で一番広い部屋。新老人の会の日野原重明会長(99歳)が、島内の子どもたちに「命の授業」を行ったのを記念して命名しました。会議用テーブルと折りたたみ椅子、マイクを使って約50人程度の集会ができます。

■ ご利用料金

大人ひとり400円の入館料プラス100円で、どちらかの部屋を4時間まで利用できます。
(最低基本料金：2時間使用で4,000円)

料金・開催曜日、人数、時間、飲み物などのご相談をお受けします。

(電話)09218833-28887
(FAX)09218833-28881



「忘れまい 博多湾・昭和の歴史」

展示——「海外引揚げの記憶」に追い風
体験者の話聞く 樋口恵子さんも参加

シンポジウム「2010年、いま戦後引揚げを問う—帝国崩壊と戦後東アジア社会—」が9月18日、福岡市箱崎の九大箱崎キャンパス内「国際ホール」で開かれ、翌19日は福岡市博多区や筑紫野市の引揚げ関連施設跡を巡った。

▽主催「帝国崩壊後の人口移動と社会統合」研究会▽共催「引揚げ港・博多を考える集い」。事務局・上智大学外国語学部国際関係論 蘭(あらさき)研究室



樋口恵子さんに当時の状況話す村石正子さん(左)。=筑紫野市内のホテルで=

開館20周年記念特別展『博多湾物語』で「海外引揚げの記憶」を取り上げ、現在も別館2階に展示中の能古博物館では、「展示の追い風にしたい」と原寛理事長、毛戸彰理事ら3名が参加した。
また小冊子『博多湾物語』の「サザエさん誕生」でおなじみの評論家樋口恵子さん(78歳)も東京から駆け付け、2日間熱心に取材した。

樋口さんは能古博物館との縁で「海外引揚げ」に着目し、とりわけ国によって秘かに開設された医療施設「厚生省引揚援護局二日市保養所」の実態を3年前から追っている。旧刑法の墮胎罪が存在した敗戦直後、この施設では朝鮮半島や中国・旧満州から引揚げてきた女性たちの墮胎手術や性病の治療が、1946年3月から翌年秋まで極秘裏に行われた。その数は400人とも500人ともいわれる。

女性たちは敗戦後、旧ソ連軍の兵士や現地民に暴行・強姦され、妊娠したり性病に罹ったまま、失意の帰国をした。帰国途上、絶望のあまり引揚船から玄界灘に身を投げた少女もいた。超法規的な墮胎手術は、旧京城帝大医学部出身の医師を中心に行われた。初日のシンポジウムで元看護師の村石正子さん(84歳)は、筑紫野市在住が手術に立ち会った模様を語った。

「引揚げ港・博多を考える集い」の会員で、敗戦を北朝鮮の国民学校3年(9歳)で迎えた山本千恵子さん(74歳)は、太宰府市在住。



山本千恵子さん(右)と樋口さん。=引揚者が上陸した博多港岸壁の近くで=

二日市保養所は壊されて今は跡形もない。敷地の一角に水子供養の「お地藏さん」が祀られ、毎年5月14日に関係者が集まって供養をする。その脇にある「仁」の文字を大きく刻んだ自然石の碑は、この場所で行なわれた医師たちの人道的な行為に感動した児島敬三さん(元修猷館高校教諭・故人)が昭和56年3月、自費で建立した。



引揚げ孤児収容施設「聖福寮」の役割を説明する「引揚げ港・博多を考える集い」の会員森下昭子さん(83歳) =写真の中央奥・福岡市博多区の聖福寺山門前で=

元中学教員は、父の敗戦直前の召集、2歳の弟の死、収容所での越冬生活、ソ連兵の女狩り、母と妹(死産)の死、38度線脱出、3姉妹だけ



施設跡見学の一行。原理事長、毛戸理事も加わった。=筑紫野市の「仁の碑」前で=

カメラスケッチ 世界のフェリー

☆豪州・カンガルー島☆
「ケープジャビービス〜ペネシヨール航路」

早朝にアデレードをバスで出発して約2時間。フリーウリユウ半島の突端の町ケープ



ジャビービスからカーフェリーでカンガルー島のペネシヨールへ。シール・ベイ自然保護区でアシカ写真①を観察し、フリンドーズ・チエイズ国立公園ではリマールカブルロックス写真②を見

学した。

島は1802年に英国人の航海士フリランダースによって発見された。水と食糧の不足にあえいでいたフリランダースたちは、偶然この島に上陸し、目の前に現れたカンガルーをつかまえて飢えをしのいだという。その感謝の意味をこめて「カンガルー島」と名付けたとか。

観光客主体のダイヤ編成 料金は割高

フェリー写真③はSEALINK社の運航。直線距離で約20キロ。ダイヤは一応1日8往復組んでいるが、確かなのは朝の2往復と夕方7時台の1往復のみ。それも朝の1往復は冬季の約1ヶ月間、間引きされる。残りのダイヤは夏季のニーズに備えたもの。観光客の需要があれば運航する。



島を訪れたのは冬季の6月だったので往路は朝9時発の始発、帰路は午後7時半の



最終便になった。料金は大人往復88ドル、学生(15〜18歳)と高齢者(要証明書)同74ドル、子ども(3〜14歳)同48ドル。1豪ドル80数円で換算してみても欲しい。さほど安くはないが、船室は各国の若者で結構賑わっていた写真④。車両の料金は長さ5メートルまでの普通乗用車で往復172ドル、自転車は同20ドルだった。

もやいを取る女性船員 売店と掛け持ち

目をひいたのは操船に従事する人員の少なさ。カーデッキへの車の出入りは係員の指示を仰ぐでもなく運転手がひとりで行っていたし写真⑤。バックで入れるし、舳(へ)先で太いもやい(係留索)を取る女性船員写真⑥は、終わると船内売店の売り子に早変わり。入港する船からもやいを受け取った男性写真⑦。矢印は、閑散期のせいか乗船券のもぎりを兼務していた。(N)



《カンガルー島》アデレードの南西約150キロに位置する。オーストラリアでは3番目に大きな島で、面積は東京都の約2倍。野生動物の宝庫で、カンガルーはもちろん、コアラ、アシカ、フェアリーペンギン、ワラビーなど、さまざまな動物が野生で見られる。また大自然によって造り出された奇岩や鍾乳洞もすばらしい。



能古博物館協賛会・友の会

平成22年度の継続・新規会員(9月現在)

- 法人協賛会員** (敬称略五十音順)
- 医療法人 笠松会 有吉病院
 - 税理士法人 エム・エイ・シー
 - ギヤラリー倉
 - 医療法人 江頭会 さくら病院
 - 医療法人 江頭会 岡部病院
 - 多々良福祉会
 - 特別養護老人ホーム なごみの里
 - 多々良福祉会
 - (株)CDS

- 個人協賛会員** (敬称略五十音順・数字は会員歴の年数)
- 福岡メディカルリース
 - 医療法人 原病院
 - (株)サンコー
 - 浄満寺
 - (株)メディカルアシスト 青葉
 - 医療法人 大乗会
 - 福岡リハビリテーション病院
 - (株)彩苑
 - (株)豊友 技建工業

- (有)タカテクノサービス
- エムサービス(株) HSS九州事業部
- (有)トータルサポートコーポレーション
- (株)ホームケアサービス
- 医療法人 廣徳会 岡部病院
- 福岡住宅流通サービス(有)
- 西日本シティ銀行 土井支店
- センタービジネス

- 明石 散人
- 足立 晴道
- 安藤 文英
- 山口 親恵
- 上野 道雄
- 明石 久美子
- 足立 文英
- 安藤 文英
- 山口 親恵
- 上野 道雄

- 友の会会員** (敬称略五十音順・数字は会員歴の年数)
- 宇都宮 邦子
 - 内海 記子
 - 梅田 正子
 - 浦島 孝子
 - 江崎 裕子
 - 江崎 裕子
 - 江崎 裕子
 - 江崎 裕子
 - 江崎 裕子
 - 江崎 裕子

- 甲斐 達子
- 古賀 修一
- 小島 玲子
- 小島 玲子
- 小島 玲子
- 小島 玲子
- 小島 玲子
- 小島 玲子
- 小島 玲子
- 小島 玲子

- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫
- 高松 隆夫

- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子
- 原 順子

- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫
- 水田 幸夫

協賛会・友の会 入会のご案内

(一) 協賛会費
個人1000円(1万円)
(100円でも可)

(二) 友の会費
1000円(3000円)
(100円でも可)

※会費の納入方法
郵便振替 017309360970
財団法人能古博物館

(1) 振込み料は当館にて負担させていただきます。

(2) 受け付け第1回、会員証とコピーチケットをお送り致します。

(3) 会費有効期限は1年と致します。

(4) 入館時に会員証(同伴1名まで有効)を受け付けてご提示下さい。

(5) 入館料は任意で回数料制ではなく無料です。

(6) コピーチケットで挽きたての香り豊かなコピーチケットをサービス致します。

(7) 能古博物館だよりを年数回お送り致します。また、寄稿の皆様の御志に掲載致します。但し諸事情で掲載が見送る場合があります。予めご了承下さい。

(8) 館が企画する催し物の割引を致します。

アクセス

- 西鉄バス**
- JR博多駅 博多口正面Aのりば 300,301,302番 能古渡船場行:約50分
 - 天神 三越前1Aのりば 300,301,302番 能古渡船場行:約30分
- 市営地下鉄**「姪浜駅」下車 乗り継ぎ
- 西鉄バス姪浜駅 南口 98番 能古渡船場行:約15分
 - タクシー:約10分

- 市営渡船(フェリー)**
- 姪浜一能古島間:約10分
- 能古島渡船場より博物館まで**
- 徒歩:約8分
 - アイランドパーク行き西鉄バス停「能古学校前」下車、徒歩下り約3分
- 問合せ**
姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709
能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

開館日 / 毎週 金曜・土曜・日曜と祝日
開館時間 / 10:00~17:00(入館16:30まで)

(注) 冬季(12月~2月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としております。御用の方は事前にお問い合わせ願います。

入館料 / 大人400円・高校生以下無料
※団体の方は休館日にかかわらずご相談ください

能古・姪浜航路時刻表

| 船名 | 往 姪浜 | 往 能古 |
|----|-------|-------|
| 5 | 15 | 00 |
| 6 | 30 | 15 45 |
| 7 | 00 30 | 15 45 |
| 8 | 00 30 | 15 |
| 9 | 15 | 00 |
| 10 | 15 | 00 |
| 11 | 15 | 00 |
| 12 | 15 | 00 |
| 13 | 15 | 00 |
| 14 | 15 | 00 |
| 15 | 15 | 00 |
| 16 | 15 | 00 |
| 17 | 15 45 | 00 30 |
| 18 | 15 45 | 00 30 |
| 19 | 45 | 30 |
| 20 | 30 | 15 45 |
| 21 | 00 | 45 |
| 22 | 00 | 45 |
| 23 | 00 | |

◎印は日祝日運休 2010年10月現在

渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表

| 日 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 日 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 祝 | 27 | 03 | 03 | 03 | 03 | 03 | 03 | 03 | 08 | 35 | 12 | 土 | | | 45 | 55 | 13 | 30 | 45 | 45 | 35 | 45 | 12 |
| | | | | | | | | | | | | 曜 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 日 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。

